

平成 22 年男女共同参画ランチョンセミナー「日本植物学会における男女共同参画の過去、現在、未来」を終えて
文責：川合真紀（埼玉大学）

日本植物学会第 74 回大会（春日井）大会では、大会本部の多大なバックアップのもとランチョンセミナーとして男女共同参画セミナーを開催いたしました。本学会では数年ぶりの男女共同参画企画であり、このようなテーマに接する機会の少ない学生や若い研究者に興味を持っていただけるか不安もありましたが、大会本部による宣伝の効果もあり、用意した昼食も全て無くなる盛況ぶりとなりました。

まずセミナーでは、学会長である福田裕穂先生（東京大）による挨拶に続き、川合真紀男女共同参画連絡会委員（埼玉大）より、植物学会会員における男女比、本大会シンポジウムや口頭発表における発表者の男女比などの数値データを説明し、本学会が、理系の学協会の中でも特に学生会員に占める女性の割合が高い（41.3%）学会であるが、一般会員においては女性の割合が激減する（14.8%）という特徴を持つことを報告しました。

続いて、日本大学の坪久子先生、名古屋大学の佐々木成江先生にご講演いただきました。坪先生は「Beyond the Bias and Barrier ～男女共同参画、世界の中の日本」という演題のもと、男女共同参画における日本の取り組みの概略と、アメリカを中心とした海外の状況、さらにそこから考えられる共通の問題を紹介されました。また、佐々木先生は、「名古屋大学発！学内学童保育所の作り方」という演題のもと、大学に学童保育を設置されるに至った経緯や体験談をお話いただきました。また、新設された大学内学童保育所で子供たちが遊ぶ姿を動画でご紹介いただきました。両先生とも、一流の研究者としての実績をもちながら、こうした活動にも力を入れられ、情熱的に話しされる姿が大変印象的でした。



今回のセミナーは本学会における久しぶりの男女共同参画企画であり、初めて参加される学会員も多いと予測されました。そこで、参加者がどのような意識を持ち、今後、どのような活動を望んでいるかを調べるため、セミナー参加者にアンケートをお願いし、計 129 名（セミナー参加者のほぼ 9 割。男女の内訳は男性 79 名、女性 45 名、不明 5 名）から回答をいただきました。以下に今回のアンケート記入者の内訳と、いくつか際立った意見や感想（個人が特定されない内容のものに限定させていただきました）を列記させていただきます。

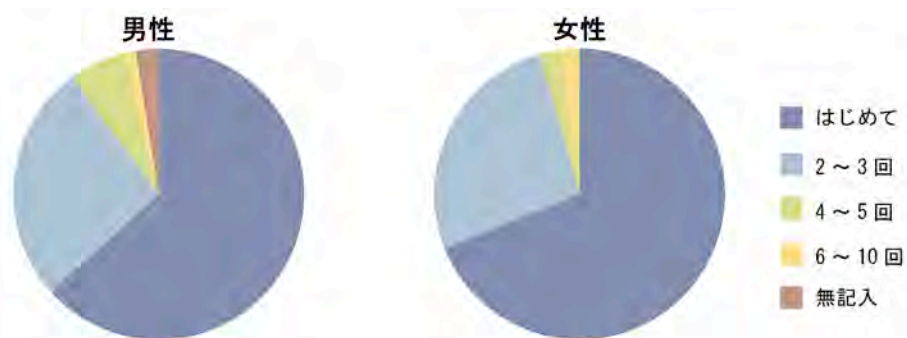


図1：「この様なテーマの集まりに参加するのは何回目ですか？」

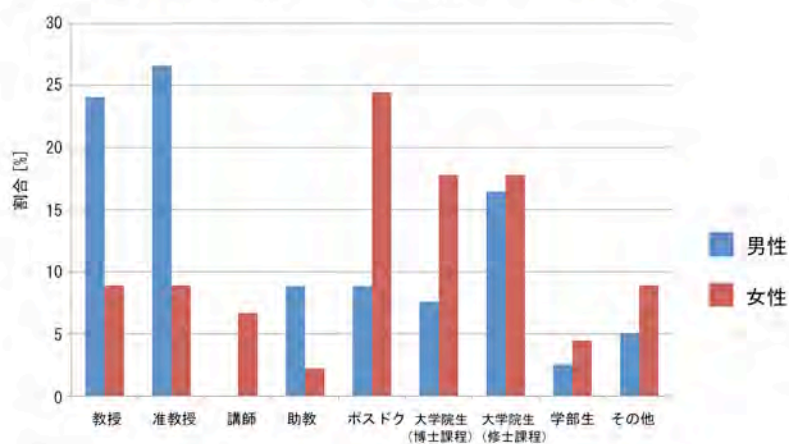


図2：アンケートに記入いただいた方の職位

<自由記入欄へのコメント>

- ・まさに私が抱えている問題を振り返り、意識を変える必要性を痛感いたしました。がんばります。(女性/ポスドク)
- ・名古屋大の学童保育は素晴らしいと感じた。ぜひいろいろな大学に同じような試みが広がるとうれしい。男女とも意識改革が必要だと思った。(男性/助教)
- ・近年の共同参画の状態がわかった。女性のリーダーを育成する、あるいはリーダーが生まれるような環境を作ることが必要であるが、女性の意識改革も同時に必要と思う。(男性/教授)
- ・研究者を目指す女性学生の一人として、バリアーとバイアスの現状を知るよい機会になりました。将来について考えてみたいと思います。(女性/修士課程院生)
- ・具体的な取り組みについて話が聞け、とても参考になりました。(女性/博士課程院生)
- ・名大の学童保育所設置のお話はとても面白かったです。「なければ作ればいい」というのは元気の出るお言葉でした。(女性/ポスドク)
- ・日本の女性研究者がとても少ないのには驚きました。女性研究者が活躍できるような場を提供していくことの重要性を実感しました。将来的に女性枠などを設けずとも研究の世界に女性が飛び込んでいけるとよいですね。(男性/修士課程院生)

- ・現在抱えている問題についてある程度認識できたが、日本社会全体の課題でもあるので、学会が同行しても限界があると思った。(男性/学部生)
- ・業績の評価との兼ね合いをどうするかが課題。身近に女性リーダーがいることが良いロールモデルとなるのでは。(男性/准教授)
- ・女性の側が意識を変える必要があるという点は自分にも当てはまるので、今後いろいろ考えたい。ただPIにならずとも研究できる職はもっとあってよいと思います。男女問わず。(女性/大学院生)
- ・女性の固定概念を崩せる活動ができればすばらしいと思った。毎年ランチオンセミナーができればと思った。(男性/大学院生)
- ・お二方とも大変具体的でわかりやすく勉強になりました。どう動けばいいのか、少し方向が見えてきたような気がします。(女性/大学院生)
- ・女性だけでなく男性の雇用(ポスト)を増やしてください。(男性/その他)
- ・植物学会において女性研究者が伸びない原因を究明し、改善することが必要である。しかしこれは非常に難しい問題。(男性/教授)

<最後に>

予想通り、多くの方はこのようなテーマのもとに開かれる会への参加経験が少なく、男女ともに6割以上の方が「今回が初めて」と回答されていました。また、回答をいただいた方の職位については、本学会では女性の数が学生会員においては多く、一般会員では少ないという結果を反映した結果となりました。自由記述欄に寄せられたコメントには、活動に前向きな意見が多く、会員が大変高い関心を寄せていることが分かりました。今後、植物学会では男女共同参画ワーキンググループの発足、男女共同参画学協会連絡会への正式加盟への検討が開始されます。このような活動を介し、植物学会の中でできることを考え提案していければと思います。

最後になりましたが、本企画を実現するにあたりご協力いただいた大勢の方々に厚く御礼申し上げます。